

アルマ 37:35 ㊦ 「若いうちに……神の戒めを守る」ことを学ぶと、どのような祝福が与えられるだろうか。

• エズラ・タフト・ベンソン大管長は、人生の早い段階、まだ若いころに戒めを守ることを学ぶことから得られる力についてこう述べている。「わたしたちが望んでいるのは、道徳的に清い生活をし、教会に忠実に出席していた人です。神権を尊んで大いなるものとし、『神への務め達成賞』を得、イーグルスカウトになった人々です。そしてセミナリーを卒業し、モルモン書に対して燃えるような証（あかし）を持っている人です。わたしたちにそのような宣教師を下さい。そうすれば、わたしたちは彼らを伝道中も、生涯においても主のために奇跡を行える人にしたいと思います。」（『聖徒の道』1986年7月号、48）

• 聖文には、まだ若いうちに主から指導者に召された例が幾つか出てくる。預言者ジョセフ・スミスは14歳（ジョセフ・スミス—歴史1:7参照）、モロナイは15歳であった（モルモン1:15参照）。旧約聖書に出てくるサムエルが主から呼ばれたのは、まだ「わらべ」のときであった（サムエル上3:1-10参照）。

ジョセフ・F・スミス大管長（1838-1918年）は、人生の早い段階で戒めを守ることと、後に主に仕える召しを受けることとの間には関係があると証している。「今、自分の周りを見回してみるとよい。早くから熱意を込めて信仰の道を歩んできたわけではない人が、指導者の中にいるだろうか。そして、自尊心があって清いことが明らかな少年、熱心に善い業に携わっている少年を見れば、将来指導者になると確信できるのではないだろうか。主がこのような人物以外から指導者をお選びになることはない。……この反対の道を行くのは残念なことである。若いときに悪いことや愚かなことを行い、その後で主に仕えればよいと考える人々がいる。若いころに悪いことをしたり罪を犯したりして、後に義にかなった生活に戻る人がいるが、このような人には必ず何か欠けているものがある。……若いころの愚かな行いや罪を後に悔い改めても、後悔の念ややりきれない思いが残る。しかし、人生の早い時期から精力的に主の業に携わってきた人には、豊かな恵みが注がれる。」（*Gospel Doctrine*, 第5版、335）

アルマ 37:38-47

わたしたちの時代に、リアホナと聖文、またはリアホナと聖なる御霊の間には具体的にどのような共通点があると思うか。

アルマ 37:38-47 リアホナ

• 長年にわたって中央幹部は、リアホナのように人生の旅路を常に導いてくれる様々な手段について語ってきた。

七十人のW・ロルフ・カー長老は、キリストの言葉をリアホナにたとえている。「兄弟姉妹の皆さん、キリストの御言葉は一人一人に道を示す個人のリアホナとなることが……分かります。方法が容易だからということで怠けないようにしましょう。神聖な聖文に記録されたままに、生ける預言者、聖見者、啓示者から語られたままに、信仰をもって、キリストの御言葉を思いと心に刻みましょう。信仰をもって熱心にキリストの御言葉を味わいましょう。キリストの御言葉は、なすべきことをすべて告げる霊のリアホナだからです。」（『リアホナ』2004年5月号、37）

• トーマス・S・モンソン大管長は、リアホナを個人に与えられる祝福師の祝福にたとえている。「リーハイにリアホナをお与えになった同じ主が、今日皆さんにもわたしにも、人生の道しるべとなる比類のない価値ある賜物を与えてくださっている。……わたしが言っている賜物とは、祝福師の祝福として知られているものである。」（*Live the Good Life* [1988年]、36）

スペンサー・W・キンボール大管長は、リアホナをキリストの光、つまりわたしたちの良心にたとえている。

「皆さんはこのような球を持ちたくはないでしょうか。……

……主は……すべての人に、誤った道に入りかける度にそのことを告げてくれる『良心』というものを与えてくださいました。……

……すべての子供にそれが与えられています。」（『聖徒の道』1977年2月号、111参照）

• デビッド・A・ベドナー長老は、リアホナを聖霊の賜物にたとえている。

「人生の道を進むとき、わたしたちはそれぞれが、リーハイがリアホナによって導かれたのと同じように、聖霊から導きを受けます。……

リアホナがリーハイと家族のために働いたのとまったく同

じように、聖霊は日々の生活の中で、わたしたちの信仰と熱意と注意力に応じて働かれます。……

そして聖霊は今日わたしたちに、『小さな、簡単なこと』（アルマ 37:6）によって、主の道についてさらなる理解を得るための手段を与えてくださいます。……

主の御霊^{みたま}は現世の旅においてわたしたちの導き手となって、導きと教えと霊的な守りを与えてくださいます。』（『リアホナ』2006 年 5 月号, 30 - 31）

アルマ 38:12 「激情をすべて制し」

• 「馬勒^{ばろく}」とは、馬の頭部に着ける装具である。くつわと手綱から成り、騎手はこれを使って馬を制御する。



© Photopin

七十人のブルース・C・ヘーフェン長老と妻のマリーは、「制する」という言葉は欲望や情熱を制御するという意味で使われているのであって、なくすという意味で使われているのではないと説明している。「強い感情には悪いものもあれば良いものもある。だからといって、人間本来の感情を否定するのは賢明なことだろうか。アルマは息子にこう教えた。『激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい。』（アルマ 38:12, 強調付加）激情を消し去るようにと、鎮めるようとも言っていない。制するようと言っているのである。つまり、強い感情を良い方向に向け、良い目的に集中するのである。なぜだろうか。それは、鍛錬することによって、より豊かな深い愛情を持つことができるようになるからである。』（*The Belonging Heart* [1994 年], 302）

アルマ 39 章 純潔の律法

• 「結婚する前にどのような性的な関係も結んではなりません。結婚した後は伴侶^{はんりょ}に対して完全に誠実であってください。二人が愛し合っていれば結婚前に性的な親密さを持つことは認められる、とサタンは誘惑するかもしれませんが。それは真実ではありません。神の目から見て、性的な罪は非常に重いものです。命を生み出すために神が与えてくださった力を汚してしまうからです。……

結婚の中でしか表現してはならない強い感情を引き起こすようなことも、結婚するまでしてはなりません。情熱的なキスをしたり、人の上に覆いかぶさったり、服の上からであれ服を脱いでであれ人の隠れた神聖な場所に触れてはなりません。あなたに対してもほかの人にそのようなことをさせ

てはなりません。自分の体に対してもそのような感情を刺激してはなりません。

デートやコートシップが認められている文化の下では、相手を常に敬い、自分の卑わいな欲望の対象として相手を利用することは決してあってはなりません。自分の体の中によぎる思いが容易に抑制できる安全な場所にいてください。性的な思いを刺激する会話や活動に加わらないでください。

同性愛行為は重い罪です。同性に魅力を感じて苦しんでいるときは、親やビショップに相談してみてください。必ず助けを与えてくれます。

強姦^{ごうかん}、近親相姦^{きんしんそうかん}、そのほかの性的虐待の犠牲になった人に罪はありません。もしあなたがこうした犯罪の犠牲者であったとしても、この点を知ってください。あなたは潔白であり神はあなたを愛していられっしゃるということです。すぐにビショップと相談してください。ビショップは心を癒^{いや}していく過程であなたを導き、助けてくれるでしょう。』（『若人の強さのために——神への務めを果たす』26 - 28）

アルマ 39:3 性的な罪の重大さ

• 十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、性的な罪が与える深刻な影響と、結婚するまで徳を保つことの大切さについて述べている。「肉体的な交わりに関しては、絶対に待たなければなりません。すべてを与えることができるようになるまで待たなければならず、法律と律法に基づいて結婚するまではすべてを与えることができないのです。自分の所有物ではないもの（『あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである』[1 コリント 6:19] という言葉を思い起こしてください）を与え、自分の全人格という賜物を伴わない形で自分の一部のみを与えることは、情緒的な破壊の危険を冒していることになるのです。もし天の承認を受けることなく肉体的な満足を追求めることに固執するならば、後になって霊的かつ心理的な損失を被る恐ろしい危険を冒すことになります。そして、結果的には肉体的な交わりを求める気持ちも、後のより真実の愛に向けられる心からの献身もともに損なってしまうことになるのです。そのような人は、神の良しとされる愛や真の一致によってもたらされる真実の瞬間を知ったときに、蓄えておけばよかったものを失ってしまい、あれほど気楽に少しずつ捨て去ってしまった純潔を回復できるのは神の恵みしかないという事実を知ってがく然とするのです。結婚式の日^{はんりょ}に永遠の伴侶にささげることのできる最良の贈り物、それは最良の自分自身、すなわち清らかで、純粋な自分、そのような清さを報いとして受けられる自らのふさわしさです。』（『聖徒の道』1999 年 1 月号, 84 - 85）

• ボイド・K・パッカー会長は、創造の力と救いの計画の関係を次のように説明している。

「創造の力、言うなれば生殖の力は、単に神の計画に付随する事柄ではなく、その計画の基礎を成すものです。この力なしに、計画は実施できませんでした。この力を誤って用いることは、計画を崩壊させることになります。」

皆さんがこの世の生涯で得ることのできる幸福の多くは、神聖な創造の力をどのように使うかにかかっています。』（『聖徒の道』1973年1月号、15）

アルマ 39 : 4

アルマはコリアントンに、誘惑から身を守るために
どうするべきであったと言っているか。
これをあなたの生活にどのように応用できるか。

アルマ 39 : 5 殺人の次に重大な罪

• ジェフリー・R・ホランド長老は、性的な背きがなぜ重大な罪であるかわたしたちがよく理解できるように、人の価値と贖罪しよくざいの関係について説明している。

「男性であれ女性であれほかの人の肉体、すなわちほかの人の霊を利用する人は、人の霊を救い、永遠の命を可能にしてください。くださったキリストの神聖な贖罪を汚していることになります。義の御子を嘲笑する人が、真昼の太陽よりも熱く神聖な栄光の世界に足を踏み入れたとき傷つかないことがあるでしょうか。」

どうぞ決して次のような発言をしないでください。『だれが傷つくというんだ。ほんの少し自由に振る舞ってどこが悪いんだ。今罪を犯しても後で悔い改められるさ。』どうぞそのような愚かで、残酷な人物にならないでください。『またもや神の御子を十字架につける』者は必ずやとがめを受けることになるでしょう（ヘブル 6 : 6 参照）。パウロも声を大にして『不品行を避けなさい』と告げています（1コリント 6 : 18）。また教義と聖約には『これに類すること』もしてはならないと付け加えられています（教義と聖約 59 : 6、強調付加）。なぜでしょうか。第1の理由としては、世の救い主が体と霊の両方に受けられた想像を絶する苦しみをわたしたちが受けることのないようにするためです。わたしたちはこの点で救い主に何らかの恩を受けています。正確に言えば、わたしたちはこの点に関してあらゆる面で救い主に恩があるのです。『あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである』とパウロは語っています。『あなたがたは、代価を

払って買いとられたのだ。それだから、神のものである、自分の体をもって、また自分の霊をもって、神の栄光をあらわしなさい。』（1コリント 6 : 19 - 20、欽定訳より和訳、強調付加）性的な罪を犯すときに、わたしたち、すなわちわたしたちの肉体と霊は危険にさらされるのです。』（『聖徒の道』1999年1月号、84 参照）

アルマ 39 : 6 ^{ゆる}赦されない罪とは何か

• 預言者ジョセフ・スミス（1805 - 1844 年）は、赦されない罪についてさらに述べている。

「聖霊に対する罪を除いては、すべての罪が赦される。なぜなら、イエスは滅びの子を除くすべての者を救われるからである。赦されない罪を犯すのは、どのような状態にある者だろうか。まず聖霊を受けており、天がその人に開かれている。そして、神を知っていながら、神に対し

て罪を犯す者である。聖霊に対する罪には、悔い改める余地がまったく残されていない。また赦されない罪を犯す者は、太陽を見ていてもそれが輝いていないと言い、天が自分に開かれていても、イエス・キリストを否定する。また、救いの計画が明らかにされていてもそれを否定する。そしてそのときから、敵となるのである。末日聖徒イエス・キリスト教会を去った背教者の多くが、このような道をたどった。』（*History of the Church*, 第6巻、314）



アルビン・ギティンズ、© 1959 IRI

アルマ 39 : 9 「もう自分の目の欲を追うことなく」

• 「もう自分の目の欲を追うことなく」という言葉は、わたしたちにどう当てはまるだろうか。科学技術が高度に発達した今日こんにちの世界にあって、サタンがこのような誘惑を仕掛けてくる手段は数多い。近年、多くの預言者が、様々な形態によるボルノグラフィーの危険性について警告している。

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、邪悪な思いを心に入れることの危険性について説明している。「救い主は性的な清さの大切さを強調し、情欲を抱いて女性を見ることさえも罪であるとお教えになりました（マタイ 5 : 28 参照）。……わたしたちの周りには男女の道ならぬ関係をけしかけるような文学があふれており、印刷された媒体や画面によく出てきます。これらを避けてください。それはあなたのためです。わいせつまたは扇情的な話や絵、写真は、汚染された食物よりもたちが悪いのです。体には、健康に良くないものが入ってきたときにそれを外に出す自己防衛機

能があります。まれに命の危険にさらされることがありますが、それは例外として、悪い食べ物を取っても、気分が悪くなるだけで、後を引くことはありません。これに対して、汚らしい話をむさぼるように読み、わいせつまたは扇情的な話や絵、写真に見入っている人は、脳という偉大な検索機能付きの記憶システムにそれを記録しているのです。脳は悪い情報を吐き出したりはしません。一度記録されたものはいつでも思い出すことができ、汚らしい画像が脳裏に浮かんで人生の健全な物事からあなたの心を遠ざけるのです。」(“Things They’re Saying,” *New Era*, 1974 年 2 月号, 18)

• エズラ・タフト・ベンソン大管長は、サタンが人の心にポルノグラフィーを取り込ませるために使う幾つかの手法について説明している。

「『自分の罪を捨て、これからはもう自分の目の欲を追うことなく』(アルマ 39:9) という、過ちを犯した息子コリアントンに預言者アルマが与えた言葉をよく考えてください。

現代において『目の欲』の対象にはどのようなものがあるでしょうか。

映画、テレビ、ビデオなど様々な例が挙げられます。

わいせつな雑誌や本などもその例でしょう。

若い男性の皆さん、そのようなもので心を汚さないください。一度汚されれば、決して前とまったく同じ状態にはなれません。わいせつな映画やビデオを見たり、それに類するどんなものにも手を出したりしないでください。低俗な音楽を聴かないでください。」(『聖徒の道』1986 年 7 月号, 47 参照)

• ゴードン・B・ヒンクレイ大管長 (1910 - 2008 年) も、ポルノグラフィーは邪悪なものであると証している。

「ポルノグラフィーは印刷され、興奮を誘う写真や絵は、悔いが残るだけの領域へと人を誘う。それは魅力的で心をそそのめる。すべての人が持つ本能をもてあそんでいるのだ。本能は、神が大いなる目的をもってわたしたちにお与えになったものである。ポルノグラフィーはこの本能をゆがめて禁じられた目的に向かわせるためにサタンが使う手段である。そこにはたいがい美しい若い女性とハンサムな若い男性が登場する。ポルノグラフィーを作成する目的は金もうけである。利用者の心をゆがめ、わなにはまった者の激情に火をつける。ポルノグラフィーの作成者は巨万の富を手に入れるが、そのわなに捕らえられた者は心痛と苦痛、後悔の念にさいなまれるのである。

それは多くの場合、新聞と一緒に売られている雑誌の中にあり、成人向けの映画を上映する映画館に登場し、家庭

のテレビの画面にも出てくる。」(*Teachings of Gordon B. Hinckley* [1997 年], 460)

• アルマ 39:9 に出てくる「断つ (cross yourself)」という言葉は、今の人にはなじみがないかもしれない。しかし、1828 年版のウェブスターの辞書には、アルマが息子に与えた勧告を理解するのに役立つ次のような定義が載っている。「ぬぐい去ること、取り消すこと、無効にすること、やめること、排除すること。」(*Noah Webster's First Edition of an American Dictionary of the English Language*, 1828 [1967 年]) これはすべて、アルマが息子コリアントンに教えているテーマである道徳的な背きに陥らないようにするために行わなければならないことである。

アルマ 39:11 - 12 人を真理から引き離す

• アルマ 39:11 - 12 でアルマは、悪い模範が人を福音から引き離すことがあるという事実を不従順な息子コリアントンに説明している。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長 (1876 - 1972 年) は、人を真理から引き離すのは忌まわしいことであると警告している。

「この世で最大の罪は、神の子である男女を真実の原則から遠ざけることであるとわたしは考えている。わたしたちは今日、神に対する信仰、福音の原則に対する信仰を覆そうとする様々な哲学を目にしている。これは何と恐るべき事態だろうか。

生涯力を尽くしてたった一人でも救うならば、わたしたちはその人とともにどれほど大きな喜びを受けるだろうか、と主は言われた。反対に、もしわたしたちの行いの結果、一人の人がこの真理から遠ざかっていったとすれば、わたしたちの悲しみと受ける罰はどれほど大きいだろうか。

自らの教えで人を盲目にし、誤りを広め、人を神の王国に導き王国のすべてを与える神の真理を破壊する人は、どんなに大きな責めと罰を永遠にわたって受けることだろうか。というのは、人の身と霊を破滅することは、これまでに創造されたものの中でも最も偉大なものを破滅することだからである。」(*Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全 3 巻 [1954 - 1956 年], 第 1 巻, 314)

アルマ 39:12 - 13, 15 「主に立ち返り」、自分の過ちを認める

• 「性的な罪に陥ってしまったときは、悔い改めのプロセスを踏み出してください。内面の平安を見いだし、御霊を十分に受けられるようにするためです。主の赦しを求めてください。ビショップに相談するなら、ビショップは真心から悔い

改めた人にだけ与えられる赦しをあなたが得られるように助けてくれるでしょう。」(『若人の強さのために』28)

• リチャード・G・スコット長老は、「主に立ち返り」、不道德な行為などの重大な罪を赦していただくために行うべきことを説明している。「ここで大きな誘惑に負けてしまった方々に少しお話したいと思います。どうか悪い癖を今すぐやめてください。理解ある両親、ビショップ、あるいはステーク会長の助けを借りてやめることができます。不道德な行為などの重大な背きを犯した人が完全かつ適切に悔い改めの過程をだれに知られることもなく着実に全うするには、ビショップやステーク会長など適切な権能かきを持つ人の助けが必要です。重大な背きについて告白してしまえば悔い改めが終わったと考えるような間違いを犯さないでください。告白は大切な段階ではありますが、悔い改めに必要なことのすべてではありません。またビショップやステーク会長があなたの背きについて詳しいことを尋ねなかったからといって、皆さんはそれらのことを話す必要はないと考えないでください。皆さんの務めは、自分が犯した罪の内容をビショップやステーク会長に十分に理解させることです。これは、皆さんが彼らの助けを受けて悔い改めの過程を正しく歩み、完全に罪の赦しを得られるようになるためです。」(『リアホナ』1999年1月号, 75 参照)

• ジェフリー・R・ホランド長老は、心から悔い改めるならば主はそばにいて力づけてくださると教えている。「主イエス・キリストの贖いあがなの犠牲を通して平安と悔い改めによる再生の道が開かれています。そのような深刻な問題に関しては、悔い改めの道を歩み始め、進み続けるのは決して容易ではありません。しかし、世の救い主は、自ら足を踏み出そうとするすべての人とともにその救いに至る道を歩んでくださいます。くじけそうになるとき、力づけてくださいます。最も暗いと思えるときに、あなたの光となってください。すべての希望がうせたと思えるときに、主はあなたの手を取り、あなたの希望となってください。主の思いやりと憐れみ、そしてすべての清めと癒しの力は、完全な赦しを得たいと望み、それに至る階段を1段ずつ上って行くすべての人に惜しみなく与えられているのです。」(『リアホナ』1999年1月号, 85 - 86)



© 1989 タカラス・フタヤ

アルマ 39:17 - 19 救いの計画は世界が創造される前に知らされていた

• 何らかの形の死後の世界があるとする宗教はあるが、前世の存在を信じる宗教はあまりない。預言者ジョセフ・スミスは、主が創造の前から御存じであった事柄について説明している。「大いなるエホバは、救いの計画に関してこの地上に関連のあるすべての出来事を、地球が存在する前……から深く考えておられた。過去、現在、未来は、主にとっては一つの永遠の『現在』である。主はアダムの墮落や大昔の人々の罪悪について、また人類家族がかかわるであろう罪悪の深さ……について御存じだった。人の墮落と、人の贖いあがなについて理解しておられた。救いの計画を御存じであり、それを示された。すべての国民の状況とその行く末を知っておられた。……主は生者と死者がそれぞれに置かれている状況を御存じであり、……彼らが贖いを受けられるように十分な用意をしてくださっているのである。」(History of the Church, 第4巻, 597)

理解を深めるために

- アルマは、神の實在と福音が真実であることを確信した瞬間、自分の過去の罪に対する深い悲しみに襲われた。なぜだろうか。今日のわたしこんにちたちにどう当てはめることができるだろうか。
- アルマは息子ヒラマンに聖文の大切さを強調した。現代の預言者も同じことを強調している。あなたは日々の聖文研究から祝福を味わっているだろうか。あなたの知っている人の中にこの祝福を味わっている人がいるだろうか。定期的に聖文をよく味わっている人の生活にはどのような祝福が注がれるだろうか。どうすれば定期的に個人で聖文を学ぶ習慣を身に付けることができるだろうか。また、すでにこの習慣がある人は、どうすればより充実させることができるだろうか。
- 良いときも悪いときも揺るぎない信仰を持てるようになる方法として、シブロンシブロンの模範から学べることにどんなことがあるだろうか。

割り当ての提案

- アルマの悔い改めと赦しゆるの経験から学べる原則は、状況が異なるとはいえ、今日のわたしこんにちたちにとっても同じである。その原則を1枚の紙にまとめ、現代のわたしたちにそれがどう当てはまるかを書く。
- アルマは、性的な背きは殺人に次ぐ重大な罪であるとコリアントンに告げている。自分を清く保つために今できることを計画し、その手順を具体的に書き出す。

第 32 章

アルマ 40 - 42 章

はじめに

人は死ぬとどうなるのだろうか。コリアントンも同様の疑問を持っていた。アルマ 40 - 42 章は、アルマが不従順な息子コリアントンに与えた勧告が中心となっている。コリアントンの疑問に答えて、アルマは霊界や裁き、復活、回復の律法、罪人に下る罰について教えた。コリアントンへの教えの最後に、アルマは、悔い改めも罪も律法も罰もなかったとしたら人生はどうなるかという疑問に答えている。アルマが息子に与えた答えは、幸福の計画や神の正義と^{あわ}憐れみ、それらが人の永遠の進歩に与える影響についてわたしたちが理解するヒントにもなる。

注解

アルマ 40 : 4 - 10 「神にあってはすべてが一日のようであり」

• アルマは、復活についてコリアントンに^{あかし}証してから、すべての人類の復活の時期についてはよく分からないと述べている。アルマにとってそのようなことはどうでもよかったのである。「神にあってはすべてが一日のようで……ある」と述べている（アルマ 40 : 8）。預言者ジョセフ・スミス（1805 - 1844 年）は、神にとって「過去も現在も未来もすべてのことが明らか」であり、「またそれらは絶えず主の前にある」ことを示した（教義と聖約 130 : 7）。

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）は、物事は神の方法で行われると述べている。

「神はこの地上において現世の時が始まるはるか前から^{あがな}贖いの業に携わっておられ、また現世の時が過ぎ去ってからもなおその業に携わられる（教義と聖約 88 : 110 ; アルマ 40 : 8 参照）。……

幸いにして、物事は人の方法ではなく、『〔神御〕自身の方法で』行われる（教義と聖約 104 : 16）。そして、時が始まる前からある神の目的、神の忍耐、神の力、神の深い愛は、時が過ぎ去った後にも存在するのである（教義と聖約 84 : 100 ; アルマ 40 : 8 参照）。

これらの真理およびその他の真理は、パウロが『神の深み』と呼んだものの中に含まれる（1 コリント 2 : 10）。」（A Wonderful Flood of Light [1990 年], 50, 58 - 59）

預言者ジョセフ・スミスも次のように述べている。「大いなるエホバは、救いの計画に関してこの地上に関連のあるすべての出来事を、地球が存在する前、すなわち喜びのために『明けの星〔が〕相共に歌〔う〕』前から深く考えておられた。過去、現在、未来は、主にとっては一つの永遠の『現在』である。」（History of the Church, 第 4 巻, 597）

アルマ 40 : 11 人の霊はすべて「彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される」

• 人は死ぬと神の前ではなく霊界に行くとするれば、アルマの言葉はどのように解釈したらよいのだろうか。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876 - 1972 年）は、アルマは必ずしも神の前に連れ戻されることを言っていたわけではないと説明している。「わたしの解釈では、このアルマの言葉（40 : 11）は、すべての霊が神のもとへ帰って平安な場所または罰を受ける場所に振り分けられ、神の前で個々の判決を受けるという意味ではない。『神のみもとへ連れ戻される』（伝道 12 : 7 と比較）とは単にこの世の人生が終わり、霊の世界に戻ることなのである。霊界では個々の業の正邪に従ってある場所に割り振られ、そこで復活を待つのである。『神のみもとに帰る』とは、よく知られているほかのいろいろな言葉の同意語である。例えば、ある男性が所定の期間、外国で伝道したとする。この男性は解任されてアメリカ合衆国に帰ると『うちがいいなあ』と言うだろう。でも、『うち』は実際にはユタ州かアイダホ州のどこか、または西部のどこかかもしれないのである。」（Answers to Gospel Questions, ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編, 全 5 巻 [1957 - 1966 年] 第 2 巻, 85）

大管長会のジョージ・Q・キャンノン管長（1827 - 1901 年）は、アルマは「霊が直ちに神の前に呼ばれることを言おうとしたのではない。アルマは明らかにこの言葉を文字どおり御前に帰るという意味では使っていない」と説明している（Gospel Truth: Discourses and Writings of President George Q. Cannon, ジェレルド・L・ニュークイスト選 [1987 年], 58）。

アルマ 40 : 11 - 15 死と復活の間の人の状態

• 次の説明は、死んでから復活するまでの間の人の状態を理解するのに助けとなる。「肉体が減んでも、霊は生き続けます。霊界で、義人の霊は『パラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休〔みます。〕』（アルマ 40 : 12）霊の獄と呼ばれる場所は『真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者』のために取っておかれます（教義と聖約 138 : 32）。霊の獄にいる霊たちは『神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の救いのための身代わりのバプテスマ、^{あんしゅ}按手による聖霊の賜物について教えを受け……知っておく必要のある、福音のすべての原則が教えられ〔まし〕た。』（教義と聖約 138 : 33 - 34）福音の原則を受け入れ、罪を悔い改め、神殿で行われる身代わりの儀式を受け入れるならば、パ